

果樹情報 第2号

(R7. 3. 24～R7. 4. 8)

県中農林事務所須賀川農業普及所・JA 夢みなみ(すかがわ岩瀬地区、あぶくま石川地区)

- 1 予想される天候(東北地方1か月予報、仙台管区气象台、令和7年3月20日発表)
- 仙台管区气象台が発表した1か月予報(3月22日～4月21日)では、今後の平均気温は平年より高く推移すると見込まれます。
- 2 発芽状況及び開花予測(福島県農業総合センター果樹研究所(福島市飯坂町) 令和7年3月21日現在)
- 各樹種(品種)の発芽予測は、平年より2℃高い場合、もも「あかつき」が3/26、日本なし「幸水」が4/1、りんご「ふじ」が3/27となりました。(表1)
- なお、この時期の生育は直前の気温の影響が大きいため、今後の気温の推移により大きく変動する可能性があります。

表1 須賀川・石川地域における発芽調査結果			
	本年	昨年	平年
もも「あかつき」(須賀川市)	-	3/27	3/25
日本なし「幸水」(須賀川市)	-	3/31	4/2
日本なし「豊水」(須賀川市)	-	3/28	3/30
りんご「ふじ」(須賀川市)	-	3/29	3/30
りんご「ふじ」(鏡石町)	-	3/29	3/30
りんご「ふじ」(石川町)	-	3/31	3/31

注)発芽日の平年は1992～2023年の平均値。

表2 福島県農業総合センター果樹研究所による発芽予測日						
	発芽日		今後の気温経過			
	昨年	平年	気象予報	平年並	2℃高い	2℃低い
もも「あかつき」	3/25	3/24	3/25	3/28	3/22	3/23
日本なし「幸水」	3/31	4/1	3/31	4/4	3/30	4/3
りんご「ふじ」	3/28	3/27	3/25	3/28	3/25	3/27

注)発芽日の平年は1991～2020年の平均値。

予測方法:発育速度(DVR)モデルによる発育予測。

3 当面の栽培技術

(1)管理作業の計画的実施

せん定やせん定枝処理、誘引及び発芽前・開花前の防除などがこの時期の管理作業の中心となりますが、発芽予測日と気象予報を考慮して、管理作業が遅れないよう注意しましょう。

(2)ももの摘らい

摘らい作業の適期は3月上旬から発芽直前までです。作業が遅れ、発芽期以降になると摘らいの際に葉芽を痛めやすく、花らいが離脱しにくくなるため、作業能率が極端に低下します。摘らいが間に合わなかった園地では、摘花や予備摘果で対応しましょう。

摘らい作業の省力化を目的として、高圧動力噴霧器と摘らい用ノズルによる水圧摘らいを実施する場合は、果面障害の発生を最小限に抑えるため、発芽期前後または開花直前～開花期頃を実施してください。なお、発芽後5～15日(開花前6～17日)頃は果面障害(図1)が発生しやすいので注意してください。



- 4 防霜対策
- 各樹種での生育は平年よりやや早く推移する見込みです(表2)。気象情報に十分注意し、燃烧資材・防霜ファンの準備など防霜対策を徹底しましょう。生育ステージごとの安全限界温度(表3～7)を下回る温度に遭遇するおそれがある場合には、速やかに防霜対策を実施して下さい。なお、降霜による被害が見られた場合は、被害状況を確認の上、人工受粉を徹底し結実確保を図りましょう。
- 【栽培上の主な対策】
- (1)傾斜地の対策: 傾斜の下に防風ネット等がある場合は、冷気を溜めないようネットの下を巻き上げておきましょう。また、冷気の流れ込む場所にネット等の遮へい物を設置することも有効です。
- (2)下草の管理: 下草は常に低く刈り込むとともに、マルチは凍霜害の危険期を過ぎてから行うようにしてください。
- (3)乾燥防止: 空気や土壌が乾燥していると気温の低下を助長するので、乾燥が続いている場合は適宜かん水を実施し、土壌水分を保持しましょう。

表3 もも「あかつき」安全限界温度

	発芽期	花蕾赤色期	花弁露出始期	花弁露出期	開花直前	開花始期	満開期～開花終期	落花期	幼果期
発育ステージ									
安全限界温度(℃)	—	-2.6	-2.5	-2.5	-2.5	-2.5	-2.5	—	-2.1

表 4 なし「幸水」安全限界温度

	発芽期	花蕾 露出期	花弁露 出始期	花弁 白色期	開花 直前	開花 始期	満開期	落花期	幼果期
発育ステージ									
安全限界温度 (°C)	-3.6	-2.9	-2.5	-1.8	-1.8	—	-1.3	—	-1.3

表 5 りんご「ふじ」安全限界温度

	発芽期	展葉 初期	花蕾 露出期	花蕾着色 ～ 開花 (赤色)期 直前	開花 始期	満開期	落花期	幼果期	
発育ステージ									
安全限界温度(℃)	-2.1	-2.1	-2.1	-2.0	—	-1.5	-1.5	-1.7	—

表 6 おうとう「佐藤錦」安全限界温度

発育ステージ	発芽期	花蕾 露出期	花弁 露出期	開花 ～ 開花 直前 始期		満開期	開花 終期	幼果期
								
安全限界温度 (°C)	-3.0	-1.6	-1.5	-1.7	-1.7	-1.7	-1.1	—

表 7 かき「平核無」安全限界温度

	発芽期~展葉期	新梢伸長期
発育ステージ		
安全限界温度 (°C)	-4.0	-2.8

5 病害虫防除上の留意点

発芽前・開花前の防除は時期が遅れないように注意し、温暖無風の日を選んで確実に実施しましょう。

(1)もも

コスカシバの発生が多い園では、薬剤を樹幹部および主枝に手散布してください。開花直前に防除暦に従い、薬剤を散布して春型枝病斑からの感染防止を図りましょう。なお、開花後の散布は葉に薬害を生じますので、防除時期を逸することのないように十分注意しましょう。また、春型枝病斑は発芽 10 日後頃から発生する場合があるため、園内をよく観察して春型枝病斑のせん除を徹底しましょう。薬剤散布後は薬斑によって病斑を発見することが困難となる場合がありますが、新梢葉の生育不良(図2)を目安に発病が疑わしい枝は見つけ次第せん除して下さい。

(2)なし

黒星病は前年の被害落葉や罹病芽(りん片)が伝染源になり、開花前から胞子を飛散するため、初期感染の防止に努めましょう。

防除暦に従い、花芽のりん片が緩み、落ち始めた頃を目安に薬剤を散布し、開花直前の散布と散布間隔があきすぎないように注意してください。

(3)りんご

伝染源となる枝腐らん、胴腐らんの発病部位は確実に削り取るかせん除し、塗布剤を塗ります。なお、伐採した被害枝幹や削り取った病患部は園内に放置せず適切に処分してください。薬剤防除は展葉初期に実施しましょう。リンゴハダニの越冬卵量が多い園では、防除暦に従い防除を行いましょう。



図 2 モモせん孔細菌病の見分け方